

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 5日は、高気圧が日本付近から日本の東へ移動する。前線が華中から東シナ海へのびる。
- 6日から7日は、低気圧が日本海から北日本付近へ進む。また、別の低気圧が本州南岸を東進して、前線が沖縄付近を通過する。
- 8日は、低気圧は千島近海へ進み、高気圧が東シナ海から日本付近へ移動する。
- 9日は、高気圧は日本の東へ移動する。前線が華中から日本の南へのび、前線上の低気圧が東シナ海へ進む。

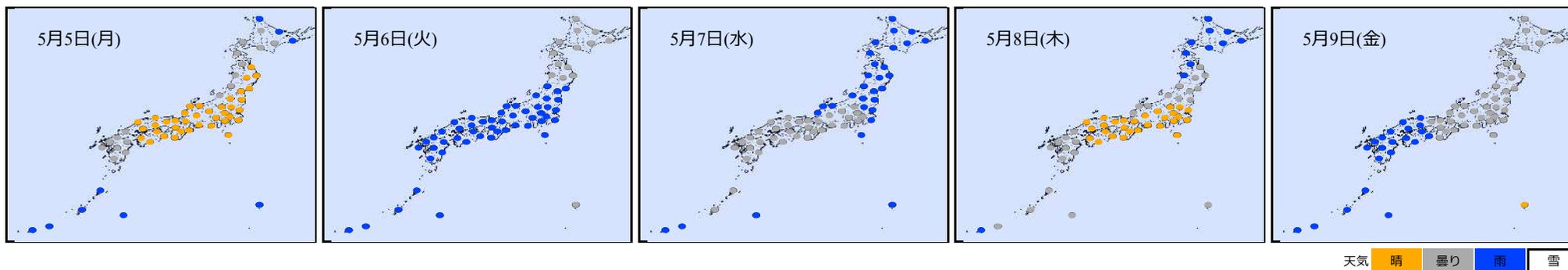
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

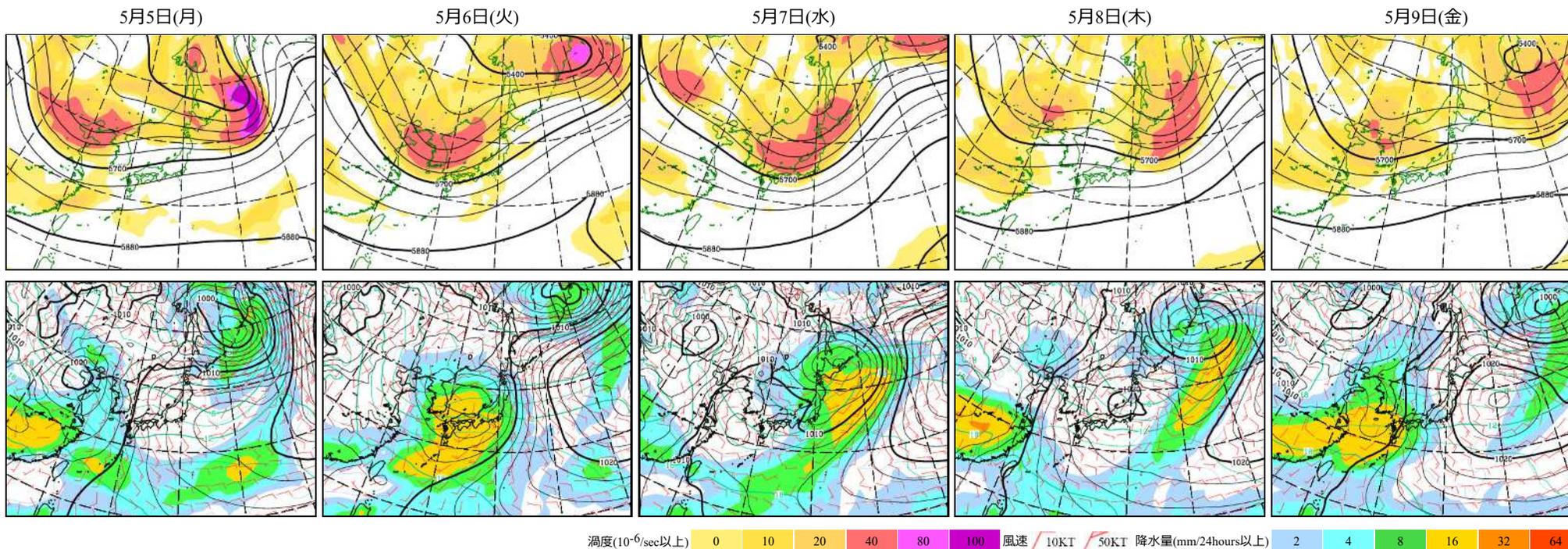
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

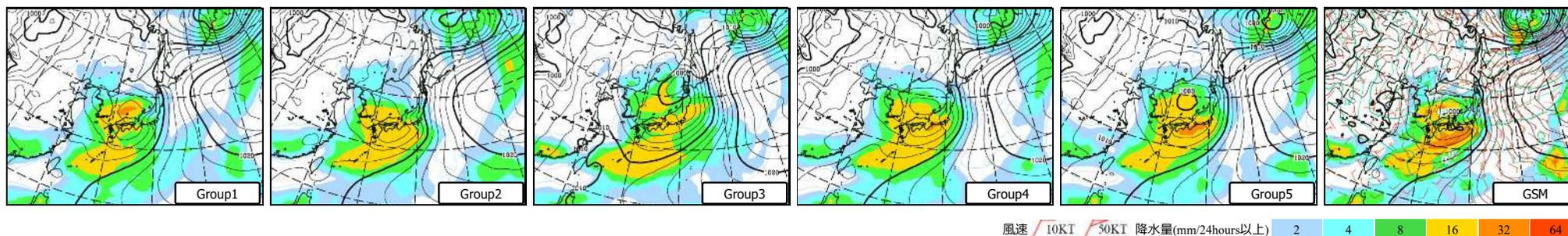


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雨の降る日が多いが、5日は晴れる所がある。
- 東日本太平洋側は、晴れや曇りの日が多いが、6日から7日は雨の降る所がある。
- 西日本は、晴れや曇りの日が多いが、6日と9日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月6日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、6日は朝鮮半島付近のトラフが深くなり、日本海や本州南岸の低気圧が明瞭となったことに対応して、東・西日本中心に降水確率が大きくなった。
- 7日頃の日本付近のトラフは海外モデルに初期値変わりがみられ、ENSやGSMの予想に近づいた。また各モデルとも、8日の本州付近は高気圧に覆われ、9日は低気圧が東シナ海へ進み、西日本と沖縄・奄美に降水を予想している。
- スプレッドは比較的小さく、各特定高度線のばらつきも小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。